



徐福にかかわる古文書などを見る関係者
 〓富士吉田市大明見の宮下義孝さん宅

中国・秦の始皇帝の命を受けて不老不死の薬を求め

「終えんの地」 富士吉田視察 中国徐福会一行

日本に渡り、富士吉田で終二三日に來日。同三十日に同湖畔に建てた徐福石像も見学した。

市内では富士吉田徐福会(宮下長春会長)がホスト役を務め、徐福にまつわる場所を案内。同市大明見の宮下義孝さん宅では、代々受け継がれてきた徐福に関する古文書「宮下文書」を見た。この後、同市小見の明見湖(通称ハス池)畔にある「徐福の墓」が私財を投じて一九九八年に同湖畔に建てた徐福石像も見学した。

張副会長は「(宮下)兄が古文書などから、徐福は実際に東渡(來日)し、不老不死の薬を求めていたと推えられる。中国に帰ったら富士吉田での出来事を伝えていきたい」と満足げ。富士吉田徐福会のメンバー「徐福の生誕地と終えんの地の交流を今後も深めていきたい」と話していた。

◆その時歴史が動いた
 【NHK総合9・15】紀元前211年に秦王から皇帝となった始皇帝にスポットを当てた前編。中国統一までをたどる。始皇帝が秦王を統一できたのは、これまで強大な軍力と統率力に下りたものと解釈されてきた。だが、近年の研究では戦国の世が統一君主を求め、その後押しで彼が始皇帝となったという見方が出てきた。後の始皇帝である政が生まれた当時、7カ国が割拠していた中国では言語から度量衡に至るまで文化が各国で異なっていた。やがて鉄製農具が普及し、生産性が向上したことで商品経済も発達。各国間の商取引も盛んになり、国同士の枠組みを越えることを志す勢力の後押しによって政は始皇帝になったという。

NHKテレビ②

00:00 ニュース9 887/12	04:58:34
15:15 区その時歴史が動いた 始皇帝(前編)は絶頂の中で始まった▽不老不死の夢▽英雄の死と秦の滅亡	9
12:51:06	986476

◆その時歴史が動いた
 【NHK総合9・15】秦の始皇帝にスポットを当てた前編。秦は、残忍な性格の始皇帝が焚書坑儒(ふんしゅうじゆ)などの正政を敷いたために滅んだと伝えられてきた。だが近年の研究により、焚書坑儒は王朝内部の派閥争いによって生じたという見方が広がっている。性急な改革を推し進めた始皇帝は度々や峻険の連発のため臣家を大動員し、多くの恨みを買った。孤独と人間不信に陥った始皇帝が次第に政治にも関心を示さなくなる。それまで敵対する立場だった輔政者、法律家らが派閥争いを展開。焚書坑儒は、その争いの中で法律家らが儒家に対して行った迫害だったという。